

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Pola-BR療法 [1コース目]

3 週毎

疾患名 悪性リンパ腫

主治医 指導医 HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()、HCV抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3
リツキシマブ BS	375 mg/m ²	↓		
ポライビー(ポラツズマブ ベドチン)	1.8 mg/kg		↓	
ベンダムスチン	90 mg/m ²		↓	↓

- 【注意】
- * リツキシマブ投与時は、体温・脈拍・血圧測定・SpO2測定を投与速度up直前におこなうこと。
 - * ベンダムスチンは調製後6時間以内に投与を終了すること。
 - * ポラツズマブ初回投与は90分かけて点滴静注し、忍容性が良好であれば2回目以降は30分まで短縮可。
 - * ポラツズマブは投与量が75 mg以上の場合は生食100 mL、75 mg未満の場合は生食50 mLで希釈する。
 - * ポラツズマブは0.2または0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること。
 - * ST合剤およびアシクロビルの予防投与を検討すること。

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

day 1

【初回のみ】 * 初回投与は必ず入院で実施

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② イブプロフェン(100 mg) _____錠 デザレックス(5 mg) _____錠 内服

☆30分後より

- ③ リツキシマブ BS + 生食 適量 (10倍希釈)

*注:総量 600 mLを超える時はテルモ生食1 Lを使用

◎ 輸液ポンプにて 50 mL/時間 で点滴静注

- ④ 50 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注

Pola-BR療法[1コース目]

- ⑤ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間 で点滴静注
- ⑥ 150 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間 で点滴静注
- ⑦ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 250 mL/時間 で点滴静注
- ⑧ 250 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間 で点滴静注
- ⑨ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 350 mL/時間 で点滴静注
- ⑩ 350 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
 - ◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間 で点滴静注

day 2

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20mL/時間)
- ② イブuproフェン(100 mg) _____錠 デザレックス(5 mg)_____錠 内服
- ③ パロノセトロン 0.75 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 20 mL 側管静注
 - ☆ 30分後より
- ④ ポライビー + 注射用水 適量 + 生食 100 mL 点滴静注90分
 - ※ 75 mg未満の場合は生食 50 mLで希釈
 - (140 mg/Vは7.2 mL、30 mg/Vは1.8 mLの注射用水で溶解)
 - ☆ 30分後より
- ⑤ ベンダムスチン + 生食 50 mL 点滴静注10分
 - ◎ 血管確保していた生食をベンダムスチンと同時滴下
- ⑥ 生食 200 mLを点滴し、残りは破棄

day 3

- ① 生食 500 mL にて血管確保 維持(20mL/時間)
- ② デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 20 mL 側管静注

③ ベンダムスチン + 生食 50 mL 点滴静注10分

◎ 血管確保していた生食をベンダムスチンと同時滴下

④ 生食 200 mLを点滴し、残りは破棄

day 4, 5 デキサメタゾン錠 8 mg 2× 朝昼 内服

	1 コース		
	day1	day2	day3
月 日	/	/	/
リツキシマブ BS 開始時刻	↓		
ポライビー 開始時刻		↓	
ベンダムスチン 開始時刻		↓	↓
確 認			